

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室・入試部
大項目	5 学生の受け入れ 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。【担当部局：学長室】	
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針	
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。【担当部局：入試部】	
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。【担当部局：学長室】	
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。【入試部】	
要素		

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 入学試験成績開示について、不合格者で請求があった者に対して実施する	→不合格となり成績開示要求を行った者への開示数	A	A	A	A	A
2. スポーツ能力に優れた者を対象とする入学試験を全学部で実施すること	→スポーツ能力に優れた者を対象とする入学試験を全学部で実施すること	C	A	A	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
3. 一般選抜入学試験の入学試験定員と各種入試の入学試験定員の比率の最終目標を5対5とし、当面、各学部において6対4とする。最終目標は、各学部の志願者数・歩留率などの状況に応じて、順次改訂し達成するものとする。	→各学部の入学試験定員における、一般選抜入試：各種入試の比率			A	A	A

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 目標設定後、予算確保・人員確保を行い、担当者がシステム運営者(外部委託)と詳細な打ち合わせを重ね、入学試験要項に請求方法を掲載し周知を行い、請求期間における成績開示請求に基づき、成績開示を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2014年度については成績開示請求数は昨年並みの215名・575件であった(昨年196名・528件)。なお、外部から成績開示請求に関する問い合わせはなく、入学試験要項での周知が十分できていると考えている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後、継続して安定的に開示を行うことが必要であるため、そのための予算・人員確保を行う。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 目標設定後、未実施学部である法学部と、入試部とスポーツ文化課で折衝にあたった。入試導入にあたっては学力の担保が大きな課題であった。全学的に本入試入学予定者に対する通信教育をスポーツ文化課で導入すること、成績不振者がでた場合は、スポーツ文化課が勧誘にあたる体育会各部に対して指導することなどを条件として、法学部での導入が決定し</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 法学部での本入試の導入が決定し、2004年1月9日の大学評議会で決定した全学でのスポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験の実施が実現し、本学における正課外活動におけるスポーツの活性化に寄与することができている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後、文部科学省が検討している到達度テストを学力担保の観点から本入試に導入することを検討する必要がある。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 目標を設定した年度以降、学長を入試委員長とする入試委員会において、各学部への依頼を行い、各学部での検討の結果、目標が達成された。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本学の募集人員は2740名から5450名に増加しており、少子化の影響を受けることなく、本学で学ぶにふさわしい学力を有した生徒を一般選抜入学試験で確保できている。さらにその他の入学試験においても多様な能力を有する生徒を確保することができている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 目標は達成されているが、今後の18歳人口の漸減期に向けた募集人員比率の検討が必要となる。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【全学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	名	5,450	5,450	5,450	5,450	5,450	
指標2	志願者総数	人	54,323	49,319	47,950	49,183	46,784	
指標3	合格者数	名	14,755	15,344	15,497	14,534	14,458	
指標4	入学者数	名	5,417	5,470	5,759	5,441	5,322	
指標5	志願者倍率	倍	10.0	9.0	8.8	9.0	8.6	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.06	1.05	1.04	1.03	1.01	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	51.9%	50.9%	52.0%	49.4%	48.8%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	19,375	20,580	21,610	21,910	21,910	
指標9	在籍学生数	名	21,182	22,046	23,116	23,089	23,020	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	109.3%	107.1%	107.0%	105.4%	105.1%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	名	81	81	82	83	74	定員がある学部のみを集計する。 (定員がない学部でも若干名の編入あり。)
指標12	編入学定員	名	110	105	110	110	110	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	73.6%	77.1%	74.5%	75.5%	67.3%	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	名	274	309	295			

※指標11については、「全学部」シートへは編入学定員がある学部のみ編入学生数合計を記載。

「各学部」のシートには編入学定員がない学部の編入学生数についても記載。(各学部シートの集計≠全学部シート)